



第3戦のポールシッター
左から中須賀克行 (JSB1000クラス)、津田拓也 (ST600クラス)
中本郡 (J-GP2クラス)、長島哲太 (J-GP3クラス)

JSB 1000 QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

中須賀克行が、ただ一人55秒台に入れ今季初ポール! 負けられない高橋巧が2番手から追撃 市販キット車で健闘の山口辰也が3番手に食い込む!!

シリーズ第3戦の舞台は茨城県・筑波サーキット。全日本ロードレースが開催されている中では最もタイトなコースである。ラップタイムは1分を切り、ライダーには、より集中力が求められる。昨年は、東日本大震災の影響で中止となったため2年振りの開催となる。

JSB1000クラスは、開幕戦で負傷し、筑波ラウンドでの復帰を目指していたV2チャンピオン古吉耕佑が、直前に欠場を発表。今回もゼッケン1不在のレースとなる。

事前テストからハイレベルな走りをしてきたのが中須賀克行と高橋巧だった。2戦を終え、優勝1回、2位1回という全く同じリザルトを残している。今回のレースを終えると8月末の第6戦SUGOまでのインターバルに入るだけに、ここはどちらも負けられない一戦になる。

1時間1セッションで争われた公式予選。快晴となったものの風が強いコンディションの中、各ライダーはタイムアタックに入る。やはり中須賀と高橋がセッションをリード。終盤に55秒台に入れた中須賀が今シーズン初めてポールポジションを獲得する結果となった。

「(予選のときは)風が強くなり走りにくかったこともあって、思うようにタイムを縮められませんでした。伊藤さんの55秒1というレコー

ドタイムは、すごいですよ。マシンは、大きく変えることはできませんけれど、自分が合わせられてきている感じです。フロントロウに並べれば良いと思っていたのでポールポジションを獲得してよかったですね。決勝は、逃げることは難しいし、バックマーカーをどうかわわっていくかがカギになると思います」と中須賀。

一方、2番手に続いた高橋は、「ポールポジションを獲得するというよりも、金曜の走り始めの感触がよくなかったので、予選中はマシンのセットアップに集中していました。だいぶダメ出しができましたし、よくなってきたのでレースに向けては、いい兆しです」とコメント。決勝レースも、この2人を中心に進んでいく可能性は高い。

そして3番手に食い込んだのが、Honda CBR1000RRの市販キット車を駆る山口辰也だ。山口は、事前テストで足回りのセットが完璧に決まったと語り、レースに向けてマシンの持つポテンシャルを最大限に引き出すため、スリッパークラッチ、バックトルクリミッター、そしてインジェクションなどのセットアップを細かく進めてきている。絶対的なエンジンパワーは、トップと差があるものの、今回はおもしろい存在になっている。

前戦では、ポールポジションを獲得している加賀山就臣だが、10年振りの筑波はやや

苦戦気味。金曜日に試したセットがいい方向に行かず、予選で事前テストの状態に戻したという。ただ、ライダーのポテンシャルは折り紙付き。レースでは、台風の目になるかもしれない。

そしてカワサキのエース柳川明も「まだマシンのいいところを出せていないのが歯がゆいところ。筑波で優勝したことがあるし、まずはスタートを決めて前についていきたいね」と、こちらも苦戦気味だが、ペース次第では、トップグループに加わってくるだろう。

加賀山と同じく10年振りの筑波でのレースとなる芹沢太麻樹が6番手。ホームコースで健闘している藤田拓哉が7番手につけ、今野由寛、清水郁己、須貝義行と57秒台で続いた。

レースは、中須賀と高橋の戦いに、山口、加賀山、柳川が、どこまでついていけるか?

そして中須賀が言うようにバックマーカーをどうかわわすかがレースのカギを握ることになりそう。第1ヘアピンからダンロップコーナーなどでバックマーカーに引っかかってしまうと、あっと言う間に差がついてしまうからだ。ホールショット奪取率が高い加賀山のスタートダッシュにも注目したいところ。30周で争われる決勝レース。最終コーナーをトップで立ち上がってくるライダーは果たして!?

(佐藤寿宏)



中須賀克行



高橋巧



中須賀克行(ポールポジションインタビュー)



山口辰也

ISB 1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP **ポールポジション: 0'55.916 #21 中須賀克行 / ヤマハYSPレーシングチーム**

事前テストでは55秒6が出ていたし、コースレコードを狙っていたので、最後まで諦めずにプッシュしたけど、55秒9だったので少し悔いが残る予選になりましたが、フロントロウを確保するという目標はクリアしたのでよしとしたい。常に自分を追い込んでおかないというレースはできないし、まずは高い目標を持ち、鈴鹿でも、もてぎでも、コースレコードがまだ塗り替えられてないので、ここ

でコースレコードを出したいと思っていました。ポールということで決勝につながるいい予選になったので、いいレースをしたいと思っています。(他車と)タイム差がなく、逃げるのは難しいと思うし、抜きどころも少ないので、まずはスタートから前に出て、周回遅れが早い段階から出てくるのを、きっちりパスしながらタイムを落とさずに走れたら勝てるはず。実現できるように頑張りたいですね。

ST 600 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP **QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW**

津田拓也がレコードを叩き出して初ポール!
「初ポールは嬉しいけど、勝たないと意味がない」



ST600もA・Bの2グループに分かれての公式予選となった。1回目のセッションでは、事前テストから速さを見せつけているタイ勢のチャランボン・ボラマイが58秒048で暫定ポール。A組トップの津田拓也が58秒084と僅差で2番手。以下、岩崎哲朗、井筒仁康、デチャ・クライサー、渡辺一馬と続く。

2回目では、Aグループで好調の津田が、一気に57秒767へとタイムアップ! 一方のBグループでは岩崎と井筒が57秒台に入れるが、津田のタイムには一歩及ばず、津田が全日本初のポールポジションを決めた。2番手に井筒、3番手が岩崎、4番手にチャランボンというオーダーとなった。



ポールポジション: 0'57.767 #15 津田拓也 / WestPower

テストでも57秒台は出ていたので、予選でもいいところまで行けるとは思っていたけど、タイム自体にはあまり納得できていないかな。でも、ベストは尽くしたし、(Aグループで先に走行が終了していたので)これがターゲットタイムになるわけで、これでBグループに負けたら、素直に相手がスゴイと思うしかないな、って思っていました。初ポールはうれしいですけど、決勝で勝たないと意味がない。自己ベストを更新できてたらもっとよかったと思うんですけどね。チームが喜んでくれているのはうれしいです。アベレージは悪くないので、とりあえず行けるとこまでガンガン行くだけです。決勝は混戦になると思うけど、トップ争いの台数を絞るためにレースをリードしたい。いいレースがしたいですね。

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

中本郡がコースレコードで全日本初ポール! 「タイム差がないのでスタートが勝負…」



50分間の1セッションで争われたJ-GP2クラスの公式予選。ポールポジションは事前テストから好タイムをマークしていた中本郡。タイムは57秒376と、従来のコースレコードを大幅に更新しての獲得だ。

「昨年から仕上げてきたマシンがようやく今年になってまとまってきた感じです。ここまで速いマシンに仕上げてくれたチームに感謝したいです」と中本。

2番手に渡辺一樹が57秒430、3番手に浦本修充が57秒716と続き、フロントロウに並ぶ3人が57秒台をマーク。以下、関口太郎、野左根航汰、岩田悟、生形秀之、高橋英倫らが58秒台で続いた。



ポールポジション: 0'57.376 #16 中本郡 / リリカAMENA with Out Run

ポールポジションは完璧に狙っていました。決勝はたぶん混戦になると思うので、少しでも前のグリッドをゲットできるように頑張りました。予選の最後に新しいタイヤを入れてアタックして、なんとかギリギリ、ポールが獲れました。タイムを出したあと1周して(自分がトップタイムなのを)確認して、(他の誰かが)来たらずたで限界かなと思ったので、決勝を見据えて走ってました。レースは混戦を抜け出せるように、スタートを決めて少しでも前に出たい。(渡辺)一樹と(浦本)修充あたりが絶対来ると思うので、ついてきたら様子を見るしかないですね。逃げ切るのはたぶん無理だと思うので、最後まで集中力を切らさないように頑張れば勝てると思います。

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

長島哲太がセッションを制覇して連続 ポールポジション!



A組、B組に分かれたJ-GP3クラスの予選1回目は長島哲太がただ一人59秒台に突入。59秒914をマークし、暫定ポールポジションを獲得。2番手に山田誓己が1分00秒229、セッション開始直後に転倒を喫した山本剛大が1分00秒469で3番手の結果となった。

2回目の予選、Aグループでは1分00秒236で山本がトップ、次いで森俊也、長尾健吾と続いた。Bグループでは、長島がセッション早々に59秒862をマーク。さらに59秒767まで更新して2戦連続のポールポジションを決めた。山田もセッションの終盤で59秒台にタイムアップして2番手。3番手、4番手はTeam NOBBYの山本と森が占めた。



ポールポジション: 0'59.767 #45 長島哲太 / Project μ 7C HARC

狙っていたのはポールポジションよりもコースレコード。今日は風が強くて目標タイムが出せず、悔しい部分はあるんですけど、アベレージのタイムは刻めていたし、決勝に向けてセットアップも詰めることができました。決勝でも59秒台でラップして、レコードを出せたらいいなと思います。目標は59秒2~3くらいだったし、そのくらいは出るバイクをチームに作ってもらっていたので、風が強かったのが悔しいですね。午後はアベレージ重視のセットに変えて、それでも59秒台で走っていたので、決勝が楽しみです。マシンのにも自分的にもまだ余裕があるので、決勝では、もっと引き締めていければ、もう少しタイムは上がると思います。特に1周目に自信があるので、最初から逃げのレースがしたいです。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走23台
●決勝スタート/14:35(30周)

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for ISB 1000 class.

***** 以上予選通過 *****

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists riders who qualified for the main race.

基準タイム(1'01.747 - 110%)

※国内競技規則 付則4 15-2-2(赤旗中断)を適用し、(残り時間53秒)予選終了とした。



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走38台
●決勝スタート/11:35(25周)

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for ST 600 class.

***** 以上予選通過 *****

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists riders who qualified for the main race.

A組1回目基準タイム(1'03.892 - 110%) 2回目基準タイム(1'03.543 - 110%)

B組1回目基準タイム(1'03.852 - 110%) 2回目基準タイム(1'03.638 - 110%)

"R" マークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 58.176



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走39台
●決勝スタート/10:30(25周)

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for J-GP3 class.

***** 以上予選通過 *****

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists riders who qualified for the main race.

A組1回目基準タイム(1'06.515 - 110%) 2回目基準タイム(1'06.259 - 110%)

B組1回目基準タイム(1'05.905 - 110%) 2回目基準タイム(1'05.743 - 110%)



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走17台
●決勝スタート/13:30(25周)

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists race results for J-GP2 class.

***** 以上予選通過 *****

Table with 6 columns: Pos, No., Name, Team, Machine, BestTime. Lists riders who qualified for the main race.

基準タイム(1'03.113 - 110%)

"R" マークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 58.134

INFORMATION



全日本ロードレース選手権シリーズ テレビ放映予定

2012年シーズンは全日本ロードレース選手権、そして全日本モトクロス選手権がレース開催8日後に録画映像で放送されることになりました。

放映スケジュール

全日本ロードレース選手権第3戦筑波 5月21日(月) 20:00~20:55

詳しくはファンサイトで http://superbike.jp/

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

第3戦筑波サーキット 5月13日(日)

Table with 2 columns: Time, Event. Lists race schedule for the 3rd race.